

竜の虫歯

門倉 暁

たかし君のおじいちゃんの家には、古い掛け軸が飾ってありました。掛け軸には竜の絵が描かれていました。怖い竜ではなく、かわいい子どもの竜でした。

おじいちゃんの家に行くと、部屋には誰もいませんでした。裏の畑かなと、たかし君は思いました。畑は野菜でいっぱいです。

部屋には竜の掛け軸が掛かっていました。あれっ、何だろう？

竜の口のあたりが少し黒くなっているように見えました。

たかし君は、顔を近づけて見ました。

「痛い、痛い」

小さな声が聞こえました。

「だれ？」

たかし君は驚いて周りを見回しました。部屋には誰もいません。

おかしいな。気のせいかな……。

「痛いよ、痛いよ」

また声が聞こえました。竜の目が動いて、

たかし君を見ました。

「えっ、君なの？」

絵の竜に言うと、竜がうなずきました。

「どうしたの？」

「歯が痛くて、がまんできないんだ」

竜が涙を流しています。

「待って、歯医者さんを呼んでくる」

たかし君は、急いで部屋を出ていきました。

交番の近くに優しい歯医者さんがいるのです。

「友だちが歯が痛くて泣いているんだ」

たかし君は歯医者さんに言いました。

「それはたいへんだ。すぐに連れて来て」

「それが……友だちは動けなくて……」

掛け軸の竜は動けません。

優しい歯医者さんは、

「それでは、私が行ってあげよう」と鞆を持

って一緒に歩いてきてくれました。

「歯の痛い友だちは、どこかな？」

歯医者さんは部屋を見回しました。

「ここ、ここ、この竜だよ」

たかし君は掛け軸の竜を指さしました。

「えっ、竜？」

歯医者さんは、掛け軸に近づいて竜を見ま

した。竜が涙を流しています。

「口を開けて」

歯医者さんに言われ、竜が口を開けました。

「ああ、確かに虫歯だね」

お医者さんは鞆を開けて、治療をしました。

「ほら、もう大丈夫だよ」

歯の汚れがなくなり、きれいになりました。

「ありがとうございます」

竜がお礼を言いました。

「痛くなったら、いつでも来てあげるよ」

歯医者さんは、帰っていきました。

おじいちゃんが戻ってきました。

「おや、何だか今日の竜はきれいだな」

おじいちゃんが掛け軸を見て言いました。

「虫歯が治ったからね」

たかし君が言うと、おじいちゃんは不思議

そうな顔をしました。